

今回の医史学会が岡山大学で催されることにちなんで、  
現岡山大学医学部の前身である岡山県医学校にまつわる話  
題を提供する。

(神奈川県総合リハビリテーション事業団

七沢リハビリテーション病院)

## 第三高等中学校医学部の講義 (第二報)

大滝 紀雄

私は昭和四十六年四月、第七二回日本医史学会総会で、  
表題の第一報を報告した。

明治初期より中期にかけて医学校の数はかなり多く、明  
治十二年には四八校に及んだ。明治二十年以降医学校は陶  
汰され、十数校に減少した。明治十九年(一八八六)四月  
勅令により中学校令が布かれた。全国を五区に分け、各区  
に一つずつ高等中学校が置かれた。第一から第五までの高  
等中学校は千葉、仙台、岡山、金沢、長崎にあった。

明治二十年八月には文部省告示によって、それぞれの高  
等中学校に医学部が設置されるようになった。したがって  
第三高等中学校医学部は現在の岡山大学医学部の前身であ  
る。岡山では明治三年医学館が開館、その後岡山医学所、  
公立病院、県立病院などと改称されたが、明治十三年岡山

医学校が開設された。明治二十年第三高等中学校医学部となつたのは前述のとおりである。

私は恩師田宮知耻夫先生の父田宮靈一氏が第三高等中学校医学部で筆記した講義ノートを田宮家の遺族から譲渡され所持している。高等中学校医学部の名称の存在した期間は、明治二十年八月から二十七年六月までの七年足らずであり、田宮靈一の卒業年度が明治二十五年であるので、右ノートは明治二十一年から二十五年まで、今から約百年前のもものと推定される。

田宮氏蔵書と印刷された和紙を用い、墨と朱の毛筆書き図入りで、一冊平均二〇〇頁、一九センチ×一三センチの和綴本三七冊である。欠番もあるので全体では四五冊以上と思われる。ノートによる科目別と講師は次のとおりである。

重学及三角術	一冊	神戸要二郎
分析化学	一	佐藤直
有機及無機化学	三	佐藤直 松尾周蔵
		片平周三郎
組織学	二	柘植宗一

解剖学	三	吉村祥二
生理学	四	富永伴五郎
薬物学	四	更井久庸
診断学	一	神吉(歎次郎?)
内科病理学	三	坂田快太郎、井上勇之丞
内科各論	二	井上(善次郎?)
小児病論	一	更井久庸
外科病理学	四	瀬尾原始
外科各論	五	坂田快太郎
眼科	二	大西克知、原田元貞
花柳病学	一	坂田快太郎

以上の三七冊である。

『岡山大学医学部百年史』第二部第七章に第三高等中学校医学部が記述されているが、当時の教師陣と受持ち学課とこれを比較してみるとだいたいにおいてよく一致している。

内容についての概説はすでに前回に述べたので、今回は脾臓と糖尿病だけに限って考察したい。これに関連した記事は内科病理学(総論)三、内科各論一と二に見られる。

「臍ハ生理上ニハ必要ナルモ病理上ニハ症候ヲ呈セズ。故ニ必要ナラズ。若シ臍病アルモ他ノ消化器が補フ故ナリ。動物実験ニテ臍ヲ除去スルモ栄養ニ障害ヲ来タサズ。臍液ハ脂肪ヲ消化ス。…又臍液ハ蛋白質ヲペプトンニ變ズ。…又臍病アレバ時々密尿病ヲ起コス。故ニ密尿病ト臍病ハ關係ヲ有セザル可カラズ。当時密尿病ノ学説ハ臍病ナルト云フ説勢力アリ。…」

「学説第一延髓ノ一定部ヲ衝ケバ、一時尿中ニ糖ヲ出ス。第二肝臓充血スレバグリコーゲンヨリ糖ヲ多ク出ス。則チ血液中ニ糖分千分三ヲ超エレバ尿中ニ糖ヲ出ス。第三蛋白質分解シテグリコーゲン多ク生ズ。グリコーゲンヨリ糖ヲ生ズ。糖ハ通例肝臓ニテ消失スルガ本病ハ肝臓ニテ消失セズ。第四通例砂糖ハ腸胃ヨリ吸収サレピルツノ作用ニヨリグリコーゲンニ變ズ。本病ハピルツナシ。」

これら糖尿病についての未熟な記載は、ブルネル(一六五三〜一七二七)が、イヌの臍臓除去で、実験的糖尿病を起したが、全摘しなかつたため生命に別条なく、臍は生命と関係ないという結論を出し、臍研究が一五〇年遅れた事実に基づく。クロード・ベルナルの有名な第四脳室糖穿

刺で実験糖尿病を作ったのは、一八四九年でより知られていた。ミンコフスキーとメーリングが犬の臍摘出で実験糖尿病を作り、本格的糖尿病の研究が始まったのは一八八九年(明治二十二)であり、正確な情報がまだ日本に伝えられていなかった。ピルツの想定は窮余の一策である。

尿糖定性法はトロンメル、ニールンデル等四種が、定量も二種が記載されている。糖尿病に限らず、診断方法、臨床検査法その他の医療情報がきわめて少ない百年前の当時、教師、生徒が異常な努力と熱意をもって新しい医学に取り組んでいる姿がうかがわれる。

(横浜市西区)